

「いのちの輝き展」

支え合ういのちと愛
千葉骨髓バンク推進連絡会

■日程 2026 9/1(火)～9/15(火) 開庁日、開庁時間内（初日 12 時より最終日のみ 15 時まで）

■場所 四街道市役所本館 2 号棟 1 階情報コーナー

（図書館にて白血病、骨髄移植関連図書コーナー設置）

■主催・問い合わせ 千葉骨髓バンク推進連絡会 043-497-5083

展示イメージ 「あやちゃんの贈り物」「MAMO のメッセージ」ほか



あやちゃんの贈り物

念願の骨髄移植を受けられぬまま、7 歳 9 ヶ月で亡くなった小さな画家・あやちゃんは、白血病と闘いながら、わずか 2 年ほどの間に 8 千枚もの絵を残しました。その頃、今のように骨髄バンクが出来ていたら、あやちゃんはさらに素晴らしい絵を描いていたにちがいありません。

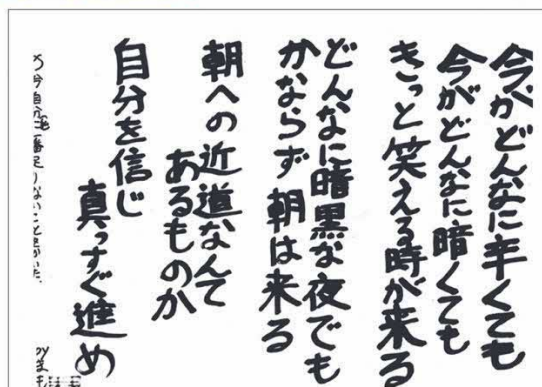


「果のなかのバナナ」一年二歳彩す



MAMO のメッセージ

白血病のために 17 歳という若さでこの世を去った小野寺守さんが、個室の病床で一人孤独と闘いながら、自らを励まし続け書き綴った心のメッセージです。
力強い筆跡と率直でまっすぐな文面に触れるとき不安な気持ちの底知れぬ深みにあっても、未来を仰ぎ見て生きていく尊さを側々と教えてくれます。



千葉骨髓バンク推進連絡会は、骨髄移植により白血病や再生不良性貧血の病気から健康を取り戻した子どもたち、残念なことに骨髄移植が出来ずに亡くなった子どもたちの絵画などを「いのちの輝き展」として開催しています。

作品の中で語られる、病気のこと、治療法のこと、病室の友達のことなどを通じ、一人でも多くの子どもたちにいのちの尊さ、健康のありがたさ、そしてみんなが助け合うことの大切さを感じてもらえたら幸いです。

また骨髄バンクのことを知って欲しいと願っています。